

全方位高解像リアルタイム動画入力とその配信システムに関する研究開発（株式会社映蔵）平成16年度中間評価結果

項目	評価	所見	再評価	再所見
総合所見	A	<p>高空間解像度・低時間解像度の映像と低空間解像度・高時間解像度の映像を組み合わせることにより、高画質の全方位動画を生成することを目指した本提案は、先端的で優れている。研究開発は概ね順調に進んでおり、問題はない。一方、複雑な動きをする動領域が存在する場合、多数のオクルージョンが存在する場合、対応する高い解像度の画像が得られない場合等、本手法が不得手とする状況も存在する。これらの短所を、本手法の長所が十分カバーできるような適切な適用分野を発掘し、市場を創成する努力が望まれる。</p> <p>本研究開発成果による知的財産をアライアンス先に提供し、製品化と製造・販売をアライアンス先が行い、同社は知的財産の許諾料を事業の収入とする事業化戦略であり、同社が研究開発型ベンチャー企業であることを考慮すると妥当な計画である。なお、当該製品の市場ターゲットは多様であり、事業的にうまくアプリケーションが見つかる大きく伸びる可能性があると思われるが、販売におけるアライアンス先の役割が小さくないため、アライアンス先の選定には十分な検討を行うことを期待する。</p>		